

げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

2002 第12号 SPRING

国指定重要無形民俗文化財
魚びす大黒綱引会



- 第3回 げんでん
ふれあい 文化賞・芸術新人賞紹介
- 県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館訪問
- 第4回 ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展



第3回（13年度）げんでんふるさと文化賞と芸術新人賞の表彰式は2月7日（ふるさとの日）に、5人の受賞者と来賓として県文化協議会川上会長さんらのご出席をいただき、日本原電敦賀地区本部で行いました。前川財団理事長より一人ひとりに、賞状、副券盾と賞金を贈り、栄誉を称えました。この機に、受賞者にインタビューし、その横顔を紹介することにしました。

第3回 (平成13年度)

げんでん

ふるさと文化賞 芸術新人賞

飯澤・永江・高橋3氏を顕彰 佐藤(能楽)・南部(洋楽)氏に新人賞

CONTENTS

- ・第3回げんでんふるさと文化賞・芸術新人賞受賞インタビュー…………… P2・3
- ・県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館訪問…………… P4・5
- ・第4回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展…………… P6・7・8
- ・高校文化部をたずねて②
丹南高校美術部…………… P9
- ・伝統芸能シリーズ 水海の田楽能舞…………… P10
- ・「きらめく人」地坊全国華道展
最高賞 小澤一枝さん
・平成14年度財団事業計画・予算のあらまし…………… P11
- ・シリーズ 福井の文学碑
俳聖・松尾芭蕉(敦賀市)…………… P12
- ・敦賀市立博物館逸品絵画誌上展7…………… P13
- ・情報ファイル…………… P14・15

表紙の説明

国指定重要無形民俗文化財 敦賀西町の綱引き



～夷子・大黒新衣装で登場～

今年の豊漁、豊作を占う新年の伝統行事「夷子・大黒綱引き」が1月20日、敦賀市相生町の旧西町通りで開かれました。今回は、160年間使用された夷子・大黒の衣装が新調されたことに伴い、新旧衣装を着けた4人の神が参加する特別行事とあって、例年のない熱気あふれる祭事となりました。新衣装の大黒神には、河瀬一治・敦賀市長・夷子神には、北村輝之助・敦賀商工会議所会頭が、身に着け、神事後、「夷子勝ったー、大黒勝ったー、エイヤー、エイヤー」と、掛け声を発しながら、新旧4人の肉神が町内を練り歩きました。大綱の中心で、新旧両神が相対すると衣装の引継ぎとして花束の贈呈が行われました。その後東西に分かれて綱引きが行われ、2分程で結着。東の夷子側に軍配が上がり、7年連続「豊漁」と出ました。

私の信条「継続は力なり」



飯澤景舟氏
(武生市)

飯澤さんの青年時代は、戦中、戦後の混乱期で、当時陸上競技に熱中するスポーツマンでした。しかし、記録への挑戦も、それまでと感じ、今後の人生のために、何か取り組みたいと、始めたのが書道で、28歳の時でした。昭和26年、土田岬山さんに師事。同28年、第一回独立書道展に初入選。以来中央書壇の発展や毎日書道展などで特選を重ね、同32年には県無鑑査会員に推挙されました。その頃から、武生市中央公民館で書道教室を担当され、今なお現職で、後進の指導に当たっておられます。「書の道50年の所感と人生の信条は…」とお尋ねする

御食国若狭の研究深めたい



永江秀雄氏
(上中町)

興立若狭歴史民俗資料館で執務中の永江さんを尋ねました。「若い時から地方の言葉の成り立ちや地名、方言の研究に引かれ、多くの調査もしてきました。小学生の頃より、理科が好きでしたから、日本史、民俗の歴史にも、その背景を理論的に証明する必要があると考え、その歳

と「努力、継続、研究、発表が書の世界で最も大切なこと。『継続は力なり』と書えられ、『今後の抱負は…』との問いに「文化は非常に幅広く奥深いものです。今年こそ平和で楽しい生活ができるように願っています。年頭、毎日現代書北陸作家展に次の書を出品したのも、平和の願いからです」と「書」への意欲がこめられていました。

出品作
『和の原形、古文体に示す』

受賞者の横顔

ふるさと文化賞

飯澤景舟氏 (書道)

社会人から書の道に入り50年。独立書道展や県美展等で入選を重ね、書道の研鑽と制作活動に精励。公民館活動における書道教室で生涯学習に貢献する一方、若狭書道会、武生市文協の要職に就き、自ら個展を開催するなど書道を通じて地方文化の振興に大きく貢献。

武生市国府一丁目、75歳

永江秀雄氏 (民俗文化)

上中町文化財保護委員、県民俗調査委員等を務め、県の民俗・伝統文化の調査・研究に多くの実績をあげ、また、上中町教育委員として、同町熊川酒や鯖街道の保存・継承に指導的役割を果たすなど若狭の民俗文化の調査、研究、保存活動に多くの功績を残しています。

連歌郡上中町関、75歳

高橋雪枝さん (短歌)

「百日紅」に入会以来36年間短歌一途に専念。また、鯖江短歌会の代表として会員の指導、短歌の普及に貢献する一方、「さばえ近松俱樂部」副代表として、「近松の里」づくりにも力を注ぎ、県文協評議員なども努め地方文化の向上に大きな功績をあげています。

鯖江市西江町、66歳

芸術新人賞

佐藤裕則氏 (音楽)

昭和47年より大学器曲部で古田卯太郎師に師事、同58年宝生流教授職に就任。高年齢の音楽界中で若手として活躍し活躍。平成11年度音楽協会若狭支部のシテで、見事な演技を発表するなど、この界の中心となる有為な若手として今後の活躍が期待されます。

坂井郡坂井町徳分田、48歳

南部匡恵さん (洋楽)

平成2年名古屋音楽大学器楽科で音楽を専攻。同5年、全日本アンサンブルコンテストで金賞、同13年「第4回長江杯国際音楽コンクール」管打楽器部門で3位入賞。クラリネット奏者としての活躍をはじめ、後進の育成にも尽力。若手のホープとして今後の活躍が期待されます。

志田郡上志比村石上、34歳

「魅力ある短歌の世界へ」 若者に期待する

北に生れ雪に育ちて郷里にアえん一生が
寒精進し
平成11年10月、高橋さんが第二歌集として上梓した「白炎」の冒頭の一首です。結局に作者の感覚が光っています。
高橋さんは、29歳で短歌の勉強を始め、以来36年間、この道への感想をお聞かせする

着と理屈を武器に、今日まで自分の活路を見出してきました。…と長い間の、民俗文化への取り組みを語ってくれました。「資料館も20年になります。主に若狭のことを中心に学習研究を続けてきました。これは、郷土やそこに住む人々を愛し、そこに埋もれさせてはならない尊い価値が存在することを信じてきたからで「真実と人間愛」これが私の人生の信条です。」と熱っぽく語り、これからは、「若狭の鯖街道や御食田(みけつくに)」について福井の文化の高揚のため、さらに研究を深めていきたい」とあるさと文化への愛着に心強い景感を感やされています。



高橋雪枝さん
(鯖江市)

と「辻森秀英先生や立派な指導者、先輩に恵まれたお陰で、今の私があります。」と

謙虚に語り、「今日までの文化活動の大切なよりどころは…とお尋ねしたところ「私は万葉集にはじまる伝統文化「敷島の道」を一筋に導いて来たつもりです。祖先が営々と築き上げた文化、その心をしっかりと受け止めていくことが大切だと思っています。」と短歌への情熱を伺うことができました。一方、高橋さんは、日本舞踊にも熱心で、「近松おどり保存会」にも所属、自ら稽古に参加し、その芸を磨いています。これからは「若年層に魅力がある短歌の世界に導くことを真剣に考える時代になるよう努力したいと思っています。」と若者への期待を強調していました。

「能楽の良さ」 若い層に啓発

佐藤さんは、能楽の道に入ったのは、大学時代。先輩に誘われ、部員10人程度の宝生会に所属し、当時は仲間同士のコミュニケーションの場としての活動でした。以来、社会人となって、福井の文化・芸能である能楽を多くの方に知ってもらおうと地道な活動を続けておられます。



佐藤裕則氏
(坂井町)

今後の活動の抱負をお聞かせすると「能楽は、世界無形遺産に指定された伝統芸能です。しかし、その感心がうすいのが現状、その良さを多くの人に知ってもらえるようにこの機に、さらに頑張っていきたい。特に子供達や若年層への浸透に力を入れます。」と力強い決意をうかがいました。

「クラリネット」の 楽しさを知って…



南部匡恵さん
(上志比村)

南部さんに、母校の福井高校でお会いしました。先ず、今日までの音楽活動についてお尋ねすると「音楽には、決まった形などありません。その目に見えない物をどのように表現するのが、そして、自分自身が音楽を楽しまなければ、聞く手にも伝わらないということ、一曲一曲を大切に演奏することに心掛けています。」と語り、この受賞をきっかけとして、「練習時間の確保に悩みがありますが、今後も色々なコンクールに挑戦したい。同時に、クラリネットの良さと楽しさを小・中・高校生や多くの人に広く知ってもらいたいの色々な形での演奏活動をしたいと思っています。」と今後の抱負を力強く語ってくれました。

県立 一乗谷朝倉氏遺跡資料館訪問

福井市の一乗谷地区に広がる朝倉氏遺跡は、発掘開始から35年。また、点在する史跡・名勝を合わせるかたちで278ヘクタールが国の特別史跡に指定され30年、今や朝倉氏遺跡は、日本の代表する戦国時代の遺跡として深い眼りからさめました。

今回、郷土の歴史をこの目で確かめようと発掘遺物を中心に関係資料を展示する県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館を訪ねました。



一乗谷朝倉氏遺跡資料館外観（西から）

訪館時、南陽寺跡の3庭園の発掘整備が始まり、以来35年を経過、この間、47年4月1日、県立朝倉遺跡調査研究所が設立され、「中世考古学」といえる遺跡の本格的な発掘調査と研究が始められました。以降、調査、環境整備が進められ、数多くの遺構、遺物等が出土、貴重な学術成果も発表され、50年代入ると見学者も増え、発掘遺物や歴史資料を公開展示するため資料館の建設が



展示室（入り口方向から）

小正月も過ぎた1月17日、寒にはめずらしく小春日和、福井市安波賀町にある同資料館を訪ねました。はじめに、青木豊昭館長さんから同遺跡の発掘調査や環境整備の沿革などについて話を伺いました。

一乗谷朝倉氏遺跡は、昭和46年7月、国の特別史跡に指定された我が国を代表する戦国時代の遺跡で、指定範囲は278ヘクタールに及んでいます。山城や城主の館、一族の屋敷、庭園、武家屋敷、町屋、寺院、城戸、縦横に走る幅広い街路の跡などが一体となって良好に遺存され、4百年間地中に眠っていました。昭和42年、湯殿跡、観

一乗谷 発掘35年 眠りからさめた戦国の城下町

計画され、56年8月、同資料館が開館。また同時に埋蔵文化財センターも同館に併設されオープンしました。調査研究所はなくなりましたが、その業務は資料館が引きつぎ、史跡の発掘調査や環境整備を担当するほか資料館としての学芸業務や啓発学習活動や特別展なども計画、年5万人余の見学者が同館を訪れています。

展示室 朝倉文化一目で

青木館長の案内で展示室を見学しました。展示は常設で、越前一乗谷を拠点として開花したいわゆる朝倉文化を一目で分かるように、発掘遺物を中心とする関係資料などが系統的なテーマごとに展示されています。

「朝倉氏の歩み」

文明3年（1471）越前一國の支配権を得た初代朝倉景春から天正元年（1573）5代義景が福田信長に敗れて、朝倉氏が滅亡するまでの百余年間の歴史の概要を記し



城戸ノ内地形模型



朝倉氏の歴史

朝倉氏は、但馬国朝倉庄（兵庫県養父郡八直町）の武士でした。「一乗谷初代景春は、志士の乱（1467-1477）で西軍に追いつき、文永3年（1193）に東軍に降参り、越前の一乗谷に居城を移したと言われています。主家であった越前守直朝斯波、甲斐氏との戦いは2代氏繁まで繰り返され、3代貞景が永正3年（1506）の加賀一向一揆を撃退したことにより、ようやく越前一國の安定が達成されました。

4代孝景は、近江、山城などの諸國にたびたび出兵し、また京や奈良の曹坊、堂などの文化人が下向してくるのを正しくしました。5代義景は、後の15代將軍足利義昭を南無寺に招き、観音堂などで接待しますが、義昭率じて上洛することはありませんでした。天正元年（1573）織田信長との刀根坂の戦いで敗北し、義景は、大野で自尽。戦国大名朝倉氏は、ついに滅亡。5代百余年にわたった城下町として栄えた一乗谷は戦火によって焼土と化しました。

た年表や系図、初代景春、5代義景の面像、古文書類（複製）を展示して朝倉氏の来歴や5代的人物像を浮き彫りにしています。展示室の入り口近くには、一乗谷の地形模型、中央の壁体の一面には一乗谷航空写真や町並みの模式図など城下町の構造がわかるように展示しています。

【戦いと宗教】

朝倉氏百余年の歴史は、戦いにあけられました。その戦いは、大きく3区分することができます。まず、越前守藤原氏の家督争いもその原因のひとつとなった成仁の乱から孝貞・氏景親子による越前統一戦争と貞景による一向一揆との戦い。次に安定期に入ってから室町幕府の求めに応じた対外出兵。最後は義景の代になって再び一向一揆との戦いと天下統一をめざした信長との朝倉氏存亡をかけた戦いです。

これらの合戦の状況などを描いたパネル、一乗谷内の寺院や石仏の分布パネルなどを用い、壮烈な戦いの様子や供養のための石仏類の豊富さなどは、寺院の隆盛を物語っています。

【学芸文化と遊芸】

戦国時代といえども、武将は弓馬の道一筋というわけにはいかず文武両道に優れていなくてはなりません。

朝倉氏を頼ってきた多くの文化人や学者が一乗谷に下向しました。これらの様子を記述したパネルや、中でも都で名高い学者



朝倉館唐門

朝倉氏5代義景の菩提を弔うためにその館跡に設けられた寺・松雲院の正門。この位置は館の正門にあたる。



将棋の駒

朝倉館の北隣の塚から大量発見。「駒象・太子」今にはない駒があり、「朝倉駒」と命名されました。

であった清原宣賢画像、茶器や花器、文房具類などを展示、間香の札、将棋の駒などを陳列、一乗谷に咲いた戦国文化や遊芸の一端を示しています。

【住居(すまい)】

一乗谷の建物は、朝倉館の常御殿から町屋の家々まですべて礎石建物で、掘立柱の建物は作業小屋など特殊な建物にしか見られません。屋根は、椽皮葺や板葺、柿葺だったようです。壁は、抜け落ちて土に戻っていますが、ごくまれに残った例では、中に竹の木舞の跡があり、表面を鏝で揃



義景館復元模型全景

ただけの簡単な粗壁から、貴重な布を張って上から細かい土で化粧塗りをした壁も出土しています。

当時の給養物や「洛中洛外図」のパネル、義景館や武家屋敷の復元模型、出土建築部材、金具類などから当時の住居の構造やデザインなどの住環境を知ることができます。

【日常生活(へんじく)】

食生活では、台所は一乗谷ではかまどではなく、部屋中央に囲炉裏をきいたり、土間に川原石を積んだ炉や笏谷石製の置き炉



「町並立体復元」道路に面して軒を揃えるように町屋が並ぶ原民家屋群

で煮炊きをしていました。土釜や土鍋などがなく、煮炊きは鉄鍋一種で一部出土しています。食器類では、飲食用の皿、碗類、貯蔵のための壺や甕、調理用具などが大量に出土しております。身のまわり品では、桐やかんざし、お歯黒蓋、紅皿などが出土し中世の女性の装いを推測することができます。腰刀、あかり用具では、燭台、灯明皿、寒い冬の夜の暖房具として、火桶やバンドコと呼ばれる行火が使用されていました。これらの遺物を展示し、戦国時代の人々の生活ぶりを表現しています。



道那見学の案内

朝倉氏遺跡資料館からの遺跡見学の標準コース。駐車場、朝倉館、湯殿跡庭園、中の御殿、諏訪館跡庭園、徳元武屋敷、武家屋敷群に至る約1時間コースが一般的です。

歴史探訪コースとしては、寺院と町屋群、公園センター、下城戸、西山光照寺の石仏群、一乗谷城などの見学があります。



お歯黒蓋など化粧具

はさみ、毛抜き、かんざし、紅皿などが出土



花・茶・香道具

花器、茶道具、間香札や高価な青磁瓶など



「落花の参道」 小林 則男氏 (鯖江市)

テーマ
21世紀に
伝えたい

第4回
ふるさと大賞
写真コンテスト

ふるさと
の宝

— 福井の自然・歴史・
文化を求めて —

第4回「ふるさと大賞」写真コンテスト(テーマ「ふるさとへの宝」)福井の自然・歴史・文化を求めてには、応募121人の方々から350点の作品が寄せられました。審査の結果、ふるさと大賞1点、ふるさと賞2点、優秀賞3点、入選25点、佳作26点が選ばれました。財団では、入賞作品の表彰式を2月7日(ふるさとの日)に原電敦賞地区本部で行いました。

ふるさと
大賞

滝谷寺の参道に並ぶ椿の花の道を正攻法でまとめあげられています。赤と黒の取合せ、シンメトリー(左右対称)に仕上げられた画面構成、椿の花に当る光線状態、これら写真作画の基本をまもった素晴らしい写真で、ふるさと大賞にふさわしい作品です。(講評/八木隆)

これからも、この受賞を励みに、福井の豊かな自然・風景との出会い、歴史、文化の重みなどを大切にして写真を撮って行きたいと思えます。

「この度のふるさと大賞の受賞は、思いもよらないことで喜びと感激で一杯です。受賞作品は、昨年4月、用事で三国へ行った時、滝谷寺に立ち寄り撮りました。山門を潜ると、杉の老樹、常緑樹で、薄暗い石畳参道が山門まで一直線に延び、参道の中程から山門まで真紅の椿の花一面が目に見え込んできました。朝早くだったので朝霧に落花も踏まれず、淡い光の中で美しい花弁と石畳の質感を写真に出せるよう注意しながら、手前から山門までピントが合うようにパンフォーカスで夢中に撮りました。」



大賞受賞の
小林則男氏

大賞インタビュー

入賞作品				
優秀賞	優秀賞	優秀賞	ふるさと賞	ふるさと大賞
(女性の部)	(一般の部)	(一般の部)	(女性の部)	(一般の部)
「九頭竜川・清朝の景」	「霧に佇む」	「春・たんぼ」	「水影」	「落花の参道」
高橋和余	大南栄男	清水孝之	大南彩子	小林則男
			長武彦	

(敬称略)

審査総評

今回のテーマ「ふるさとのお宝」の自然・歴史・文化は、あまりに広範囲にわたるため主題の方向性が少し戸惑われたことと思います。しかし物事の全ては、この自然・歴史・文化に含まれていないかと思えます。

写真を撮る上で一番大切なことは、テーマの絞り込みです。自分が考えたテーマをどう生かすかが、写真の良し悪しを決めます。また、テーマに沿って主題と題材を如何にまとめることが、良い写真の条件になります。今回、審査して感じたことは、何を撮るか、テーマに対する考え方が少し甘いように感じました。

コンテストの写真で一番考えなければならぬのが、アングルの新鮮さ。自分しか撮れないカメラアングル・カメラポジションを工夫して撮ることが必要です。特に今回のテーマの場合、自分の新しいアングルを発見して入賞してほしいと思いました。

二番目は「ピントの甘さ」です。カメラアングルは素晴らしいが、ピントが甘い、カメラブレ、被写体深度が浅いなどで残念な作品となったのがありました。もっと三脚の使い方をマスターすることが必要です。

三番目は、ネガカラーのプリントの焼付けは、少し色調が浅く感じるため、立体感がなくなるので、光線の状態やプリントの色味を注意することが必要です。

審査委員長 八木 隆氏 (写真家)

◆審査員◆

(敬称略)

審査委員		審査委員長
水野政明	前川則夫	八木 隆
日本原電取縮役敦賀地区本部業務部長	当財団理事長	写真家
水谷内健次	野田訓生	奥村広文
(株)福井県文化協議会副会長	福井県立美術館学芸員	福井フジカラー(株)取締役社長
谷口恒夫	谷口恒夫	谷口恒夫
(株)福井新聞社写真部長		



一般の部

「花火と灯籠流し」 長 武彦氏 (福井市)

花火の瞬間と流れる灯籠を画面いっぱいに取り入れた夏の終りの雰囲気もあり、ふるさと賞にふさわしい完成度の高い秀作だと思います。

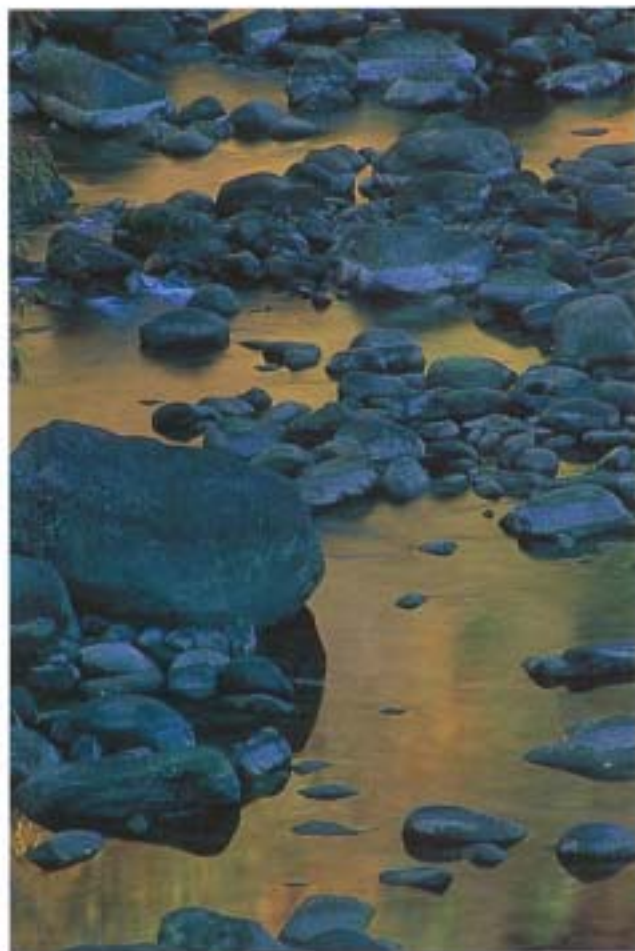
(講評/水谷内健次)

ふるさと賞

女性の部

夕日の沈む頃だろうか、赤くなった太陽光を逃がさず全体の色調としてまとめている。浅瀬の小石らをこれだけ大写しにしても深みがあるのは、撮影技術もさることながら、それ以上の写真感があるからだろうかと思心します。子供の頃遊んだ遠い日の思い出が水音をたてながら近付いて来る安堵も、とても安定した構図ですが、ちよつと上部が重たい気もします。それでも納得の秀作。

(講評/谷口恒夫)



「水彩」 大南 彩 子氏 (敦賀市)

一般の部



「春・たんぼ」 清水孝之氏(鯖江市)

春の畑で田植えの準備をする光景を、カメラマンの目が的確にとらえています。昔なつかしい、見なれた風景を、たて位置の構図でまとめることにより奥行きのある場面を作りあげ、レンズの使い方やカメラの高さなどにより、迫力ある、見る人を引き付ける優秀作品です。(講評/奥村広文)

一般の部



「霧に佇む」 大南栄男氏(敦賀市)

雪原に一本の木、すばらしいアングルを見付けられ感心します。写真の色調が神秘的な感じで、おとなしい雰囲気に仕上がっています。一本の木、背景の山、霧、写真を見るものを「ハット」させる優秀作品です。カメラアングルの勝利といえましょう。(講評/八木隆)

女性の部



「九頭竜川・清朝の景」 高橋和余氏(福井市)

冬の早朝の九頭竜川に、もやがかかる幻想的な情景をねらった一枚です。朝日によって朝一瞬と表情を変える風景のどの瞬間を切り取るかがとても難しいところですが、本作では、もやと朝日のバランスが、朝日に切り変わる最後の瞬間を見事にとらえました。この結果、力強く生命感あふれた九頭竜川の自然が造型されました。視線を画面から逃さない構図も見事です。(講評/野田潤生)

入賞作品展示会

敦賀・福井2会場で

入賞作品の展示に見入る人たちが
福井市・ショッピングシティ「ベル」



入賞作品(57点)を多くの人にみてもらおうと2月5日(火)から17日(日)まで、敦賀市本町2丁目「げんでんふれあいギャラリー」で同月22日(金)から27日(水)まで、福井市花堂南2丁目、ショッピングシティ「ベル」で、入賞作品展示会を開きました。

会場には大勢の人たちが訪れ、入賞作品をじっくりと見入っていました。

入賞		佳作	
一般の部 福多津の夜更 あめまん 松尾木道 地獄巻の里 カラクリの葉 いにしへの恋 石巻川の流れ 海流の舞 雲海のお城 塔の影 雪化粧 道沿いの文庫 みりの秋 水鏡 道沿の松 日向海岸 塔の下に輝く 下下	青柳町で 松本孝雄 三宅 三宅 清水久 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎	女性の部 ししにさし 大地に夢み みどりの畑 保志城の早香 深くなりゆく 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元 紅葉の目元	松本孝雄 三宅 三宅 清水久 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎 松本八郎

心の泉より湧き出る文化大河となり海を成せ '03福井

高校文化活動をたずねて②

丹南高校
美術部

1年後に迫った第27回全国高校総合文化祭福井大会に備え、県内高校の美術・文化活動に取り組み姿を紹介する「シリーズ2」として、今回、丹南高等学校（鯖江市熊田町）を訪ねました。



マスケットキャラクター「リウリウ」

丹南高校（3年）
藤澤麻美さんの作品

県立丹南高等学校（内田隆三校長）の正門から入ると南側に、淡いピンク色で彩られた斬新なデザインの3階建ての建物が目に付きます。この建物は同校の美術、デザイン、地域文化等の教育施設として、学習や部活動、地域の文化活動等幅広く活用されている「学校美術館」ともいえる総合学科棟です。校長室には、第27回全国高校総合文化祭福井大会のマスケットキャラクター「リウリウ」の原画（複製）が掲げられています。もちろん、この原画の作者は、同校3年生藤澤麻美さんで、平成12年度に公募された255点の原画から最優秀賞に選ばれた作品です。



学習の成果を披露する課題研究展の準備を進める美術部員＝総合学科棟1階ギャラリー

りを目指しています。芸術担当の教員は非常勤含めて13名が配置され、充実した指導陣容を誇っています。

美術科主任の橋本成先生に、日本でも有数の設備を誇る総合学科棟を案内され、1階のギャラリーをはじめ、彫刻陶芸室、2階のコンピューター室やプロダクトデザイン室、3階のデッサン室、アトリエ室などを拝見しました。実践的で個性を大切にしたい学習や部活動、恵まれた教室、充実した設備から、生徒の創造性と輝きが見えるような感銘をうけました。現在、同校の美術部には全学年で70数名が所属し、絵画、写真、デザイン、立体、コンピューター部門に分かれ、充実した部活動を続けています。



平成9年2月完成した美術棟ともいえる総合学科棟外観

平成13年度県主催の福井デザインマインドコンペで金賞や県高校総合文化祭美術・工芸部門での県高文運奨励賞、マンガ甲子園代表としての出場など数々の受賞歴に輝き、日頃の部活動に顕著な成果をあげています。

全国総文祭には 完成度高い作品を

部活動の指導方針などについて橋先生と美術部代表の大西泰裕さんから話を伺いました。

「本校の美術部は、6人の美術教員で、五つの分野に分けて指導しているのが特色です。部員のほとんどが、絵画やデザイン

の専門の授業を選択しています。基礎基本を授業で身につけている生徒が多く、本人の個性を生かした分野で、のびのびと制作し、日々充実した活動を行っています。

来年の夏には、全国総合文化祭福井県大会があり、美術工芸部門では、県立美術館に各都道府県代表の力作が展示されます。美術を志す同年代の仲間が一同に集うこの大会、完成度の高い作品を出品し、全国の仲間達と作品を通して交流できるような、一層力を入れて指導していきたいと思っています。」と、心強い決意を聞くことができました。

アイデアをこらし 個性ある作品をめざす



美術部長（2年）
大西泰裕さん

丹南高校美術部は、2年連続で全総文祭代表として出展し、本年度も出展することが決まっています。他にもマンガ甲子園に出場するなどたくさんの方を驚かせています。今年は、あまりにも部員数が多いため5つの分野に分かれて活動するようになりました。

各分野では担当の先生の指導の下、生徒一人一人が、作品を一生懸命制作しています。作品は、実に多様で油絵や水彩画、彫刻や陶芸、更にコンピューターグラフィックスなど、平面的な作品から立体的な作品まであります。一人一人が力作を作りあげようと、納得のいくまでアイデアを凝らし、丹念に仕上げしていきます。完成した作品には、どれも一つ一つの個性が輝いています。

総合文化祭は2年後で、私たち2年生は卒業してしまうけれど、後輩に丹南の美術部の心惹きを受け継いでもらってがんばってほしいと思います。

シリーズ
ふくいの
伝統芸能

国指定無形民俗文化財 水海の田楽能舞

池田町
水海



天下泰平などを祈とうして、めでたく舞う「鏡」(式三番)

田楽能舞の由来

水海の田楽能舞は、伝説によると、建長2年(1250)鎌倉幕府の執権北條時頼が、随国行脚中、降り積もる雪に閉じ込められ、水海の地で一冬を過ごした際、村人達が木ウの葉をかぶり、笹の葉をササラにしてすり、田楽を舞って歓迎しました。時頼公は、そのお礼に能舞を教えたのが始まりと伝えられています。

毎年2月15日、池田町水海の鶏甘神社で地元保存会の手によって750年余りの歴史をもつ「田楽能舞」が奉納されます。今年は20年以上ぶりに楽器や衣装の一部が新調され、より優推で勇壮な舞が披露されました。

神没3人「別火」の潔斎

2月3日の夜、神社事務所関係者が一同に集い、保存会長を中心に、舞人、獅子、熊の役者をはじめ衣装付けに至るまでの役割が決まります。その翌日から本稽古に入り、14日には「場均し」と称して、拝殿で最後の仕上げの稽古が行われます。八幡、住吉、鏡の面をかぶり神役をつとめる3人の舞人は、奉納の3日前から「別火」ということで、家族との共同炊事を避

豊作を祈願 農耕を祝う 田楽能舞

田楽は五穀の豊かな実りを願い、感謝することからおこった農民の芸能で、現在「扇とび」「祝詞」「あまじやんごこ」「阿漢」の4番が舞われています。【扇とび】舞人は一人、黒い衣裳に黒のほおかむりをし、腰をまげてかがみながら、中唇(扇の一種)を左右に振り上げ肩にかつくようにしながら、掛け声に合わせて片足ずつ交互に飛びながら舞台を一回りする

優雅に勇壮に

舞です。この舞は、土地の区画を定める意味をもつといわれています。【祝詞】八幡神の面をつけ今日の田楽能舞を奉納する意味を語りながら舞います。代々神社の神主が努め、最後に五穀豊穰・国家安穏などを祈願して舞納めます。【あまじやんごこ】舞人は3人。細め太鼓の調子に合わせて、腰をかがめながら列をなし、「びんざささ」をすり合わせながら舞台を回ります。



水海川での禊に向う3人の神役

舞手3人で舞う「あまじやんごこ」

この舞は、田中の荒振る神々を鎮める舞といわれています。今年も、稽古を重ねた池田第一小学校の児童3人が初挑戦しました。



綱と鬼を演じる「羅生門」

【阿漢】田の神(住吉神ともいう)の真黒な面をつけ、中唇とチリ(幣)を持って、田打ちから刈り入れまでを語る詞(口上)を述べ、後段、豊作を祝って舞います。

水海の能舞は現在、「鏡」「高砂」「田村」

【阿漢】「羅生門」の5曲が舞われます。

【鏡】式三番とも呼ばれ、天下泰平、国土安穏を祈願するめでたい歌舞です。

最初に鏡の賀詞、次に千歳の舞、鏡の舞と続き、最後に三番舞の舞で終わります。

三番舞は、「採の段」と「鈴の段」に分かれ、採の段は、地面め、鈴の段は農耕の種

蒔きを表しているともいわれています。

【高砂】相生の松によって夫婦の和合と長

寿を祝福し、国の永遠の平安を奏ぐ、能の

高砂の後シテを演じます。

【田村】清水寺の縁起を中心に観音の仏力

をたたえ、田村廣の武勇を示す舞で、水海

の能では第一場から舞われています。

【羅生門】応神天皇の昔、織女が朝廷へ献上

の綾錦を織ったいわれを主題にした舞で祝

賀の舞の場面より始まります。

【羅生門】渡辺綱と鬼神との大奮闘、綱が

天下に勇名をとどろかせた素朴な武人氣質

を主題とした舞で、能舞はこの羅生門で締

めくくり、悪魔払いの意味を持たせていま

す。



池坊、全国華道展 京都

小澤さん(福井) 最高賞



特選の喜びを語る小澤一枝さん。

開花の美しさをより一層引き立てています。カセクサのさばきも、動きもよいと思います。それぞれの花材の間の扱い方がよく、美しい作品になりました。」と評価されました。

小澤さんは、華道歴40数年、現在、自宅で華道教室を開設。また、母校の三国高校の華道講師として年20回程度授業を担当されるなど本県華道界の振興にも寄与されています。

団体でも福井支部3位

今回の華道展では、団体でも、池坊福井支部が、自由花を担当した前田多恵子さん(岡市大垣町)、立花を担当した岩佐れい子さん(岡市御幸2丁目)、小澤さんの3人の合計点で出場した44支部中の3位に入賞しました。今回の快挙に、小澤さんは「これを助みに、今後、新しいことにも取り組み、自分の納得する作品づくりを進めたい。」と今後の抱負を語っていました。

全国最大規模といわれる華道展覧会「旧七夕会『池坊全国華道展』」が1月17・18日、京都市の池坊会館などで開かれ、コンクールの部で小澤一枝さん(福井市栗森町浜)が最高賞である特選に選ばれました。

同大会には全国約4百支部から2千人が参加。コンクール部門には団体、個人合わせて44支部の172人が出品しました。

特選には、コンクール部門の出品作の中から技術、表現力など総合的に最も優れた1点が選ばれます。コンクールでは、自分たちで用意した花器や花材を使い、3時間半の持ち時間でつくり上げた作品が審査されます。小澤さんは、団体メンバーとして参加、必修である立花、生花、自由花の3形式のうち生花を担当。花材は、ヨシ、風草、パンダの3種類を用い、「冷たい風に吹かれながらも生きる、草花たちの生命の強さ」を表現。審査員評では「パンダ一輪の美しさを極限に表現したすぐれた生花新風体です。蕾の表情が



池坊全国華道展で特選に選ばれた小澤さんの作品

予算のあらまし

平成14年度

財団事業計画

総額9,290万円

支出の部では、重点施策を焦点に、予算編成を行い、事業費7,760万円を計上。文化団体等の助成費は2500万円を予定しました。財団「寄付行為」で定めている事業区分による事業費は次のとおりです。

- 1 地域文化の振興事業1,730万円
- 2 ふれあい・ゆとりの創造事業1,140万円
- 3 芸術鑑賞機会の提供・文化創造事業3,446万円
- 4 優れた文化活動への顕彰事業730万円
- 5 その他の事業(ホームページの開設・広報誌の発行など)714万円

6重点施策

1. 文化団体等に対する助成事業制度の普及と充実
2. ふくい県民文化祭(分野別フェス・)・県内高校総合文化祭等の育成支援
3. 魅力ある文化・芸術鑑賞機会の提供事業の充実
4. 人に優しいふれあいのある地域活動の推進
5. ふるさと文化賞、ふるさと大賞写真コンテスト等の財団顕彰事業の定着化
6. 財団創立5周年を記念した財団広報、広報活動の推進

基本方針

創立5周年にあたり 信頼・特色づくりへ前進

平成14年度の財団事業計画と予算は、3月12日に開かれた評議員会及び理事会で決められました。本年度は財団創立5周年に当り、今日までの歩みと基盤に、さらに前進を図る区切りの年度と位置付け、「ふくい」文化の育成的支援など信頼される財団として特色あるイメージづくりを基本方針としました。



福井の文学碑

俳聖松尾芭蕉 (俳句の里 敦賀市)



漂泊の果てに得た安らぎの姿をとらえた「敦賀における芭蕉翁」像。日本芸術院会員富永直樹氏創作。台座に「月清し…」の句。
昭和57年11月建立。=気比神宮境内

芭蕉句碑 敦賀市内に14基

俳人、松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅で敦賀に足跡を残したのは元禄2年（1689）8月。芭蕉は敦賀での仲秋の名月を観ることを旅中の楽しみの一つにしました。

国指定重要文化財「おくのほそ道」素雅清書本（敦賀市新道野西村家所蔵）の「敦賀のくだり―気比文節」の書体を忠実に刻んだ文学碑が平成13年5月、アクアト

ム（敦賀市神楽2丁目）玄関広場に敦賀市文化協会が同会創立40周年記念事業（当財団協賛）の一環として建立しました。

石碑は御影石製で横2・フメートル、高さ1・1メートル。碑面には「十四日の夕ぐれ、つるがの津に宿をもとむ。その夜、月珠に晴たり。…月清し遊行のもてる砂の上」十五日、亭主の詞にたがはず、雨晴。「名月や北園日和定なき」―有名な2句が刻まれています。

「おくのほそ道」には芭蕉の句が50句載



芭蕉「おくのほそ道」文学碑。平成13年5月除幕、=アクアトム玄関広場（神楽町2丁目）



「芭蕉翁月5句」碑=気比神宮境内
この碑は愛媛県石鎚山産青石（縦2.6m、横1.4m、奥行1.3m）に碑面をはめ込んだ大きな句碑で敦賀に因んだ月を詠んだ5句が刻まれています。平成8年、敦賀ライオンズクラブ建立。
「国々の八景更に気比の月」「月清し遊行のもてる砂の上」「ふるき名の角渡や恋し秋の月」「月いつこ輝八枕る海の底」「名月や北園日和定なき」

敦賀市内の芭蕉の文学句碑等所在

所在地	文学句碑の内容	建立時期
気比神宮境内	「おくのほそ道」文学碑（敦賀のくだり文節） 芭蕉像・台座句（月清し…）☆	平成13年
金初寺境内（金ヶ崎町）	句碑（月いつこ輝八枕る海の底）	平成11年
本陣寺境内（色の浜）	句碑（小敷ぢれますほの小鳥小舎）	昭和29年
本陣寺境内（色の浜）	句碑（衣着て小貝拾はんいろの月）	昭和57年
（朝山堂）（色の浜）	句碑（寂しさや須磨にかちたる濱の秋）	平成6年
来迎寺境内（松園）	お妙持神事句碑（半壊） 芭蕉翁と妙持神事句（句・月清し…）☆	（句碑）平成29年 （台座）平成29年 （お妙持神事）西方面から移築 （芭蕉翁と妙持神事）敦賀市立
西福寺境内（西）	句碑（松風の寒葉か水の音すし）	江戸時代
西村家（新道野）	句碑（芭蕉翁の句）	文政5年
常宮神社境内（常宮）	句碑（月清し…）☆	文政5年
陸奥街道 松尾ハチヤウヤウヤウヤの歌	句碑（名月や北園日和定めなき）	昭和57年
北園 松尾ハチヤウヤウヤウヤの歌	句碑（ふるき名の角渡や恋し秋の月）	昭和63年
敦賀市民文化センター前	句碑（国々の八景更に気比の月）	昭和57年
敦賀気比高校グラウンド下	句碑（月いつこ輝八枕る海の底）	平成8年



▲形遣パーキングエリアより
眺める句碑
名月や北園日和定なき
▲裏面には芭蕉のシルエット

せられていますが、うち敦賀県内では5句、そのうち敦賀では次の4句が有名です。
・月清し遊行のもてる砂の上
・名月や北園日和定なき
・寂しさや須磨にかちたる濱の秋
・波の間や小貝にまじる秋の塵
また、「おくのほそ道」以外にも敦賀に因んで詠まれたいくつかの作品が知られています。芭蕉と敦賀との係りの深さを知るため同市内に所在する芭蕉の文学句碑をまとめました。（別表のとおり）
敦賀市には「俳句の里・つるが」を象徴

芭蕉の略年譜

松尾芭蕉は、寛永21年（1644）伊賀の国（現・三重県）上野赤坂町で出生。幼名・金作。元禄後宗廟と名乗り、31歳の頃まで俳句として使用。別号に「ほせを」「桃青などを自署。寛文2年（1682）頼堂良忠から俳諧を学び、その後、京都で北村季吟に師事。のち江戸に下り、延宝8年（1680）深川の草庵（後の芭蕉庵）に移り隠棲。談林の排風を超えて俳諧に文学性の高い蕉風を創り上げました。
各地を旅して多くの名句や紀行文を残しています。紀行・日記には「おくのほそ道」「野ざらし紀行」「夏の小文」など。
元禄7年（1694）10月12日、旅先の大阪で死去。享年51歳。

するにふさわしく14の句碑が気比神宮をはじめゆかりの地に建立されています。

☆「月清し…」は「月清し」の誤り

敦賀市立博物館所蔵
逸品絵画誌上展

7

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。



若菜摘図



曲水宴図

〈解説〉

今回採りあげた2幅は、京の年中行事のなかで四季を彩る五節句を題材にした中島来章筆の5幅中、「若菜摘図」「曲水宴図」を紹介しました。

「若菜摘図」は正月7日の七草粥を祝う行事で、香野辺で摘んだ若松や芹・薺など七草が竹籠に盛られています。

「曲水宴図」は、3月3日満開の桃花のもと、流水の杯を前にして詩歌を詠する公家たちのいせいきとした姿をあらわしています。いづれも江戸後期の作。

〈中島来章の略歴〉

中島来章は、近江・大津の人。字は子慶、揚江、神通堂などと号しました。始め渡辺南岳に学び、のち円山応挙に師事、また光琳にも私淑したといわれています。

安政元年（1854）京都御所の炎上再建に際し、障壁画を揮毫するなど京師壇で多くの名作をのこしています。

明治4年（1871）76歳で死去。

楽しいアトラクションで開幕



開幕アトラクションに注目しなど
注目のショーを披露＝教賀県子力部

財団では日本とイギリスの小学生絵画交流展を、日本原電、イギリスのBNFL社と共催で12月9日から23日まで、教賀県子力館とげんでんふれあいギャラリー（本町2丁目）で、年明けて1月4日から9日まで同市内のショッピングセンター「ポーション」で開催しました。

絵画交流展の初日は、作品を出展した教賀市赤崎、成瀬、北、西小学校の児童、父兄をはじめBNFLジャパン社長、市教委、学校長ら約100人が出席してオープニングセレモニーを開きました。式典は関係者の挨拶に続いてイギリスの紹介や11月、すでにイギリスで開かれた絵画交流展の様子などが紹介され、アトラクションに移りました。コメディパフォーマーの堀野パンリさんが血廻しや一輪車を使った曲芸ショーなどを披露し、日英友好交流の楽しい一刻を過ごしました。

作品展には、教賀市の4小学校から37点イギリスのカンブリア地方の10小学校から50点が出展され、「私たちのくらし」をテーマに、風景や暮しの様子など郷土の特色を描いた楽しい絵が目立ち、会場を訪れた親子づれの目を惹きつけていました。



絵画交流展
教賀市内ポーション
で7日開幕

第12回高校総合文化祭 音楽フェスティバル

11/14

第12回県高校総合文化祭（当財団協賛）の音楽フェスティバルが11月14日、県立音楽堂など福井・鯖江・武生市の4会場で、吹奏楽・マーチングバンド・合唱・器楽管弦楽、日本音楽・吟詠剣詩舞・郷土芸能の7部門に分かれ、高校生ら約1,100人が参加して開かれました。

今年度は、2年後に開かれる第27回全国高校総合文化祭福井大会の成功をめざし、各会場とも、大会のイメージソング「未来」にふさわしく、ハーモニーや演奏、演技を披露し、仲間同士の交流を深めました。



近畿高校総文祭に県代表で出演する大野、大野東、勝山高校の合同吹奏楽団の発表
＝鯖江市文化センター

吹奏楽部門は、鯖江市文化センターで、開会式のと丸岡高校吹奏楽部20名の演奏に始まり、単独校8校と合同で楽団を組んだ12校、4組のオーケストラが、日頃の練習のサウンドを響かせました。最後に、11月17日から和歌山県で開かれる近畿高校総合文化祭に出場する大野、大野東、勝山高校の61名のオーケストラが「アルセナール組曲」「感星」より木星」を演奏し、会場から大きな拍手が送られました。

マーチングバンド・パトントワリング部門は、鯖江市体育館を会場に開かれ、福井



源田俊一郎編曲「ホーム・ソング・メドレー」を歌う藤島高校合唱部＝県立音楽堂

仁愛女子、教賀高校の3校が出場。近畿大会に県代表で出場する福井高校47名のマーチングバンドが「レジェンド・オブ・エクスカリバー」「アーサー王伝説」をテーマに見事な演奏と演技を披露しました。

合唱・器楽管弦楽部門は、県立音楽堂大ホールで開かれ、合唱の部は、14校、約200名の部員が出場しました。

高志高校（10名）部員の「ハイホー・ハイホー」の合唱にはじまり10校のチームが青春のハーモニーを披露。最後に近畿大会に出場する足羽、啓新・鯖江・丹南・武生東高校の合同チームが、さだまさし作詞・作曲の「道化師のソネット」などを歌い上げました。



郷土芸能部門で和太鼓組曲「九頭竜」を披露する勝山高校チーム＝武生市文化センター

器楽管弦楽部門では、丹南高校など4校の発表の後、藤島、高志、丹生、武生高校の合同オーケストラ（56名）が清水八州男先生の指揮で、バッハ作曲「ブランデンブルグ協奏曲第3番より第一楽章」を演奏。最後にバッハ作曲の「主よ、人の望みの喜びよ」を含め、加わった合同演奏でフィナーレを飾りました。

日本音楽・吟詠剣詩舞、郷土芸能部門は武生市文化センターで開かれ、午前中の日本音楽の部では、藤島高校を始め11校が歌曲を発表。最後に、和楽器奏者八島興作先生による沢井忠夫作曲「馬のように」の模範演奏が行われ、参加した生徒達は事の名曲に聞き入っていました。

吟詠剣詩舞では、7校から合吟、朗読、剣舞を披露し、剣舞では丸岡・仁愛女子、丹生、教賀工業高校の合同チームが「灯明寺の戦い」を勇壮に舞い、観客から大きな拍手が送られていました。

郷土芸能部門では、福井農林・勝山高校が参加。近畿大会に出場する勝山高校チームは、和太鼓組曲「九頭竜」を見事な演奏で盛り上げました。

めざましクラシックス・inふくい

2/16

美しい音色、楽しいトークを披露

県立音楽堂



楽しいトークを交え、クラシックコンサートを披露＝県立音楽堂

ヴァイオリニスト高崎ささ子とフジテレビ軽部真一アナウンサーがプロデュースした「めざましクラシックinふくい」(当財団協賛)が2月16日夜、県立音楽堂で開かれました。

コンサートは、2部構成で、高崎さんが中心に、今村均(ヴァイオリン)、榎戸崇浩(ヴィオラ)

ラゴ 荒圃子(チェロ)と佐藤かおる(ピアノ)のカルテットが進められ、軽部、高崎さんの2人が時折、ジョークを入れる軽妙なトークを交え、クラシックから映画音楽、ポップスまでのカジュアルなコンサートを披露しました。

前段、ベートーヴェン作曲の「ピアノソナタ「悲愴」より第2楽章」など、後段はプリンセスメドレーなどの名曲を華麗に演奏。途中、ヴォーカル吉岡小鼓音さんと軽部さんが突如会場から「オペラ座の怪人」の聲で登場、「Think of me」などを持前の美声で歌い上げました。また、ゲストコーナーとして作曲家来生たかお氏が特別出演。自らピアノの伴奏で「ねがえり」などを独唱し、会場のファンを引きつけました。最後に、アンコールに応じて、全員が一星に願いを「美しい四重奏と合唱で会場を包み、1200人の観客を魅了しました。

若越書道会展

県立美術館

11/22-25

公募や会員作品657点

若越書道会(山田石雲会長)の第31回作品展(同会主催、当財団後援)が11月22日から25日まで県立美術館で開かれました。

この作品展は、「一般書道愛好者(会員)600人」が白紙の研究と練成の成果を発表し、広く書道に対する理解と関心を深めてもらうと毎年開かれている書道展です。

会場には、一般公募の作品128点、会員の部529点が出展され、漢字、かな、調和体、近代詩文など多様な書風の作品が展示され、いづれも格調ある力作揃いで会場を訪れた延約1500人のファンは、書道の世界に浸っていました。

最終日の25日には、優秀作品の表彰式が行われ、昨年から始まった一般公募の部で



第31回若越書道会展＝県立美術館

は特選27点が選ばれ、知事賞には、小浜市の二村洋未さんの作品が受賞。本年度から創設した「げんでんふれあい福井財団賞」は、中国の曾孝慈書院から出典した銘文を美しく楷書で書きあげた藤子信子さん(福井市順化2丁目)の作品に財団賞を贈りました。

県市町村文協選抜美術展

11/23-25

絵画・書など自信作を展示 宮崎村



第22回県市町村文協選抜美術展＝宮崎村花みずき炎ほの館

県文化協議会と宮崎村文化協議会が主催(当財団協賛)した第22回県・市町村文協選抜美術展が11月23日、25日まで宮崎村の「花みずき炎ほの館」で開かれました。

この美術展は県内の28市町村

文協が毎年会場持廻りで開催され、市町村文協から選抜された絵画、書道、写真、工芸部門の優秀作品456点が展示されました。絵画の部では、油彩から水彩、水墨画までそろい、風景や人物、静物などを題材に153点の力作が並び、書道の部では、漢詩、かな、現代詩文など111点、写真の部では、四季の自然や風景などの作品(76点)、工芸部門では、陶芸、彫刻、能面、装飾工芸など多彩な作品(116点)が展示されました。各部門とも地域における美術活動で練成された自信作で、郷土色を生かした作品が目立ち、訪れた人々は、晩秋を飾るにふさわしい美術展にじっくりと楽しんでいました。

今川裕代ピアノリサイタル

3/16

繊細で流麗な調べを披露

平成10年よりオーストリア国立ザルツブルグモーツァルトウム音楽大学ピアノ演奏科コースに留学していた今川裕代さんが、この程同大学を修了し、帰国後初めてのピアノリサイタル(当財団協賛)を、3月16



美しい旋律を披露したピアノリサイタル＝県立音楽堂

日夜、県立音楽堂で開きました。

リサイタルは、ベートーヴェン作曲「幻想曲作品77」に始まり、クラシックの美しい旋律を会場に響かせ、後半、ブラームス作曲「ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ作品24」など繊細で、流麗な調べを演奏。8年にわたるクラシックの本場ヨーロッパでの音楽生活で得たピアノへの情熱を見事に披露し、集まった約400人の聴衆から大きな拍手が送られました。

今川さんは、福井市の出身で、仁愛女子高校を経て、平成6年、ドイツの国立シュトゥットガルト音楽大学ピアノ科に入学。同10年、同大学を首席で卒業。同年、当財団の若手芸術家育成のための「特別奨励金制度」の第2回目の対象者に選ばれ、オーストリアの国立音楽大学に留学。本年3月、同大学を修了。将来有望な若手ヴァイオリニストとして今後の活躍が期待されています。

平成14年度財団助成事業を募集

申請期限5月2日(木)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて平成14年度の助成事業を受ける団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
3. 平成14年4月現在で、原則として設立2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

応募の方法

- 財団所定の「平成14年度助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を5月2日(木)まで(申請事業の実施が4・5月の場合は3月29日まで)に当財団宛提出して下さい。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは財団(事務所等は下記のとおり)にお問合せ下さい。

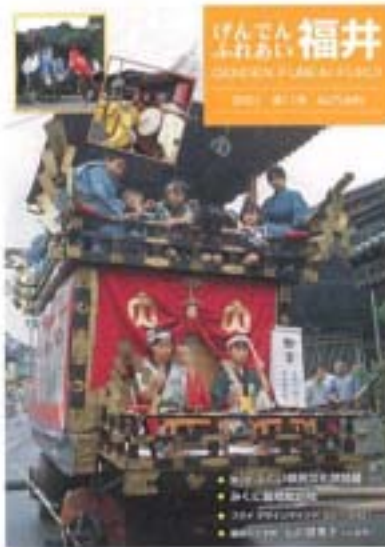
助成団体の選考・決定

助成団体の選考は、当財団の理事、評議員の中から委嘱された「選考委員会」に諮問し、その答申に基づき助成を決定します。助成が決定した場合は、速やかに申請団体と推薦団体に通知します。

愛読者アンケートご回答のまとめ

げんでんふれあい 福井第11号

本誌第11号のアンケートに総数39通のご回答をいただき、ありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり、本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。



Q: 第11号で良かった記事は?

- | | |
|---------------------------|-----|
| 1. 第2回ふくい県民文化祭開幕 | 6名 |
| 2. みくに福井館訪問 | 13名 |
| 3. 福井デザインマインドコンペ・2001 | 6名 |
| 4. 県内高校文化部活動をたずねて 敦賀高校音楽部 | 3名 |
| 5. 狂言を楽しむ会 茂山千作師インタビュー | 11名 |
| 6. シリーズ2 福井の文化碑 山川登美子 | 23名 |
| 7. 敦賀市立博物館所蔵絵巻誌上展6 | 6名 |
| 8. ふくいの伝統芸能「オシッサマのお運び」 | 9名 |
| 9. 暖い新たに福祉演芸会 | 2名 |
| 10. 情報ファイル | 8名 |
| 11. その他 | 0名 |

本誌への主なご意見など

- 高校生の文化活動を継続して取り上げてほしい。
- 伝統芸能・伝統文化記事は勉強・教養につながるので、県内均等に配慮し、順次取りあげて下さい。
- 博物館・資料館などの訪問記事に期待しています。
- いま少し、専門的な感じがしますが、さらに分かりやすい文学雑誌に。
- いつも表紙写真が良いので、今後とも伝統文化財を中心に企画してください。
- 原子力発電の安全性の記事も載せたら。
- 夏祭りのイベントの参加方法等も掲載してほしい。

財団イベント INFORMATION

げんでんふれあいコンサート	日野浩正&越智順子のジャズ&ゴスペルコンサート	平成14年 6月2日(日)	敦賀市民文化センター	チケット(¥2,000) 4月28日(日)発売
文化講演会	バイマーヤンジン(チベット人音楽家)の「トーク&コンサート」	平成14年 6月15日(土)	福井市・県生活学習館(ユ一・アイふくい)	共催: 福井県連合婦人会 ※入場無料

財団ホームページ アドレス <http://www.Genden.or.jp>

「げんでんふれあい福井」第12号
2002年3月発行

(発行) 財団法人 げんでんふれあい福井財団

〒914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番地16号(日本原子力発電敦賀地区本部4階)
TEL.0770-21-0291 FAX.0770-21-9070